

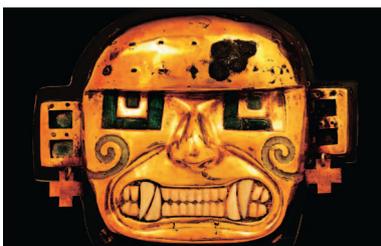
2018年度の企画展 今年度も多彩な展覧会を企画しています。是非ご来館ください。

※展覧会名は仮称です。会期等は変更されることがあります。

古代アンデス文明展

2018年3月21日(水・祝) ▶ 5月6日(日)

南米大陸西岸に栄えた古代アンデス文明の環境は、世界の他の文化に類を見ないほど多様でした。南北の広がり4000キロメートル、標高差は海岸の砂漠地帯から人が住む限界の高地まで4500メートルにも及び、それぞれの環境に多彩な文化が開きました。本展では、地上絵で知られるナスカなど、アンデス文明を代表する9つの文化を、土器、織物、黄金製品やミイラなど、約200点の資料により紹介します。人類が到達した先史時代から、スペイン人によるインカ帝国征服まで、約1万5千年の文明史をご覧ください。



《象嵌のマスク》モチェ文化(紀元200年頃から750/800年頃)
ペルー文化省・国立博物館所蔵 撮影:義井豊

レオ・レオーニ展

2018年10月6日(土) ▶ 12月16日(日)

教科書にも載る「スイミー」や「フレデリック」などの絵本で、日本でも親しまれているレオ・レオーニ(1910-1999)。オランダ生まれのユダヤ人であるレオーニは、イタリアをはじめ欧米各地で活動した後、1939年にアメリカに亡命、グラフィックデザイナーとして活躍しました。1959年、子ども



《「アレクサンダーとぜんまいねずみ」》1969年
Alexander and the Wind-up Mouse
© 1969, renewed 1997 by Leo Lionni / Pantheon
Works by Leo Lionni, On Loan By The Lionni Family

の絵本に初めて抽象表現を取り入れた「あおくとときいろちゃん」を出版、以降、40冊近くの絵本を世に送り出しました。本展では、絵本の原画を中心に、油彩、彫刻、グラフィックデザインなどを併せて紹介し、その人生と創作に迫ります。

ジブリのアニメーション 近藤勝也展

2018年7月7日(土) ▶ 9月24日(月・休)



《魔法の宅急便》イメージボード 1989年 ©1989角野栄子・Studio Ghibli-N

宮崎駿監督も絶大な信頼を置く圧倒的な画力、魅力的な表情、生き生きとしたキャラクターたちの動き。スタジオジブリ作品の輝きを支えるアニメーションの一人、近藤勝也氏(1963年新居浜市生まれ)を取り上げた本展では、氏の描いたアニメーション原画やキャラクターデザインの仕事を中心に、多彩な作品約500点を紹介します。「魔法の宅急便」「海がきこえる」「崖の上のポニョ」をはじめ、「山賊の娘ローニャ」や広告用イラスト等、描くことが大好きだった少年がアニメーターとなって飛躍し、活動の幅を広げる様子をご覧ください。

創立100周年記念 国画創作協会の全貌展

2019年1月4日(金) ▶ 2月17日(日)

大正から昭和にかけて、既存の画壇に対する不満の高まりとともに、近代日本画は大きな転換期を迎えました。横山大観らが東京で日本美術院を再興したのもこの時期です。一方、京都では大正7年(1918)、土田麦僊をはじめとする新進気鋭の日本画家達によって「国画創作協会」が結成されました。個性の尊重と創作の自由を謳ったこの会から生まれた数々の名作、話題作の清新な印象は今なお失われておらず、一見に値します。麦僊の他、小野竹喬、野長瀬晩花、神原紫峰らの若き日の挑戦をぜひご覧ください。



土田麦僊《蔬菜》1924年 新潟県立近代美術館寄託

ニューヨークが生んだ伝説 写真家 ソール・ライター展

2019年3月9日(土) ▶ 5月12日(日) (予定)

1950年代からニューヨークで第一線のファッション・カメラマンとして活躍しつつ、80年代に商業写真から退き、世間から姿を消したソール・ライター(1923-2013)。2006年にドイツで出版された作品集により、83歳で大きく脚光を浴びることになりました。その後、展覧会開催や出版が相次ぎ、彼の生き様を取材した映画も2012年に公開されました(日本公開2015年)。本展は、ニューヨークのソール・ライター財団所蔵の写真・絵画作品、その他貴重資料を一堂に集めます。「カラー写真のパイオニア」と称された創造の秘密に迫ります。



《足跡》1950年頃 ©Saul Leiter Foundation

館長所感

新潟県立近代美術館、そしてその分館である県立万代島美術館の2つの館を束ねる木村哲郎新潟県立近代美術館館長。就任から1年の思いを寄せていただきました。



県立万代島美術館と長岡市にある県立近代美術館は姉妹館です。万代島美術館は都市型的美術館でコンパクトに造られているため、作品を収蔵するスペースが限られています。昨年、万代島美術館で開催した「レオナルド・フジタとモデルたち」展では多くの名作に交じって近代美術館が所蔵する《私の夢》という名品が展示され、会場でひとときわ輝きを放っていました。姉妹館ですから作品の貸し借りは、気兼ねなく行われています。近代美術館が県外で開かれる美術展に作品を貸し出す際、作品の所蔵者名は必ず「新潟県立近代美術館・万代島美術館」と表記します。両館が切っても切れない関係にあることが分かってもらえらると思います。



土田麦僊《芥子》1926年 新潟県立近代美術館・万代島美術館蔵
※「国画創作協会の全貌展」[2019年1月4日(金)~2月17日(日)]にて展示予定(前期、または後期のみ)の展示となります。詳細はお問い合わせ下さい

私が館長に就任したのは昨年の4月。近代美術館が開館したのが25年前の1993年、私は4人目の館長になります。ちなみに万代島美術館の誕生は2003年です。館長に就任して近代美術館が収蔵美術品の内容・点数両面からみて、国内有数の美術館であることを知りました。歴史をひも解くと、近代美術館は誕生する前に、新潟県

美術博物館という名称で25年余りの歴史を持っています。新潟地震からの復興を記念して設立された美術博物館。設立間もなくから県出身および本県ゆかりの作家の作品収集に取り組みます。日本画では小林古径、土田麦僊、横山操、三輪晃勢ら、洋画では長岡出身の小山正太郎、牧野虎雄、阿部展也ら、彫刻では北村四海・正信親子、千野茂、そして工芸では本間琢斎、佐々木象堂、三代宮田藍堂、そのほか書の會津八一、デザインの亀倉雄策、版画の星襄一、写真の岡田紅陽、渡辺義雄、濱谷浩ら。いずれも各界を代表する著名な作家ばかりです。その後も浅井忠、青木繁、藤島武二、岸田劉生、萬鐵五郎、佐伯祐三、このほか戦後のパイオニア的存在の斎藤義重、山口長男らを加え、近代日本洋画史をほぼ概観できる作家群を揃えた上に、東山魁夷、横山操ら日本画の名作も収蔵することになります。

海外作品についても、日本の近現代洋画に影響を与えた作家を中心に収集が進められました。小山正太郎の師フォンタネージ、テオドル・ルソーやデュプレ、ドービニーらバルビゾン派の作品などが収蔵リストに加えられました。開館当時の収蔵品4千点から現在は6千点余に増えました。万代島美術館、近代美術館ではこうした名作・名品を県民の皆さんから鑑賞していただけるよう、日々研究を重ねています。「文化・芸術が活発な地域は、元気があふれている」と言われます。県民の財産といえる2つの美術館を大いにご活用いただきたいと願っています。

(新潟県立
近代美術館
館長 木村哲郎)



濱谷浩《サインカミの火の打ち合い》1940年
新潟県立近代美術館・万代島美術館蔵
※所蔵品展「ターニングポイント」[2018年5月19日(土)~6月24日(日)]にて展示予定

2018年度の 所蔵品展

新潟県立近代美術館と万代島美術館で所蔵している6,000点を
超える作品の中からテーマを設け、新たな切り口で作品を紹介します。

ターニングポイント! 一人生、それぞれの“時”

2018年5月19日(土) ▶ 6月24日(日)

美術家の人生におけるさまざまな転機に着目し、関連する作品とともに創作の推移をたどります。進学、卒業、就職、帰郷、転居、出会い、結婚などの機に臨み、創作者としてどのような道を選び、人生を展開させたのか。そして、それが創作にどのような影響をおよぼしたのか。こうした視点に立って作品に対すれば、新たな感覚が生まれることでしょう。また、本年は当館の開館15年という時の節目にあたります。そこから、「15歳のパンビ」と題す特集展示を併設し、当館のこれまでの活動を振り返ります。



宮芳平《自画像》1919年
新潟県立近代美術館寄託

新潟県立近代美術館(長岡市)の企画展

新潟県立近代美術館は、改修工事のため、
2018年7月2日(月)~2019年8月(予定)の間、
全面休館いたします。

ディズニー・アート展 いのちを吹き込む魔法

2018年2月17日(土) ▶ 5月13日(日)

白寿 江口草玄のすべて

2018年5月26日(土) ▶ 7月1日(日)

【開館時間】午前9時~午後5時(観覧券販売は午後4時30分まで)

【休館日】月曜(ただし月曜が祝日の場合は開館し、翌日休館)

【お問い合わせ先】〒940-2083 新潟県長岡市千秋3丁目278-14

TEL : 0258-28-4111 (代表) URL : <https://kinbi.pref.niigata.lg.jp/>

企画展「レオナルド・フジタとモデルたち」 関連イベントから

「レオナルド・フジタとモデルたち」

2017年6月24日(土)～9月3日(日)

フランスから特別出品された全幅12メートルの壁画<構図>と<争闘>は、日本での公開が最後と考えられ、この貴重な機会を活かすべく壁画の展示空間を含む複数の関連イベントを開催しました。

まずは、ギャラリー・トーク「会田誠、フジタを語る」です。フジタに関心を寄せ、影響を受けた作品も残す会田さんが、同じ画家であるフジタをどのように見ているのか。当日は壁画を前に約200名もの参加者を集めて、ときおり会場の笑いを誘いながらも、会田さんらしい真面目な語りで、独自のフジタ観が披露されました。



ギャラリー・トーク「会田誠、フジタを語る」2017年7月23日(日)

つづいては、日本初の劇場専属舞踊団として、新潟を拠点に国内外で活動するNoism(ノイズム)のメインカンパニーNoism1による特別パフォーマンス「DoGoD」です。芸術監督の金森穰さんの演出と振付により、10名のメンバー



Noism1による特別パフォーマンス「DoGoD」2017年8月13日(日)

が人体と肌を強く意識させる衣裳で踊る光景には、フジタのモデル研究の集大成である背景の壁画と一体化するような感覚にもとらわれて、実に贅沢な時間空間が生まれました。

最後は、展示室を離れての講演会「絵画保存修復家の仕事～よみがえる絵画、そしてフジタ」です。本展で壁画の状態確認を担当した岩井希久子さんが、外部では決して見ることができない貴重な記録写真を用いて、ご自身の仕事を時に人生と重ねながら語りました。参加者から寄せられたアンケートでは、その多様で困難な仕事をはじめて知った方も多く、さらに岩井さんが日本や東南アジアの美術館に対し提言と行動する姿に共感する声が多数見られました。

このように、それぞれのイベントが展覧会の魅力を広げ、深めることにつながったと考えています。



講演会「絵画保存修復家の仕事～よみがえる絵画、そしてフジタ」2017年7月30日(日)

澤田佳三(当館業務課課長代理)

NIIGATAアートリンク 共催 学芸員によるギャラリートーク

2017年9月30日(土)

「所蔵品展 うつくしい暮らし」

2017年9月16日(土)～11月5日(日)

新潟県立、新潟市立の美術館4館によるネットワーク「NIIGATAアートリンク」との共催イベントとして、新潟市美術館の星野立子学芸員と当館の学芸員の二人が、展示室を巡りながら出品作についてお話ししました。2つの美術館の学芸員がそれぞれの視点から語ることで、作品をより多角的にご覧いただきました。



ワークショップ

「にいがたもよう オリジナルミニノートづくり」

2017年3月26日(日)・4月29日(土・祝)

「マリメッコ展ーデザイン、ファブリック、 ライフスタイル」

2017年3月4日(土)～6月11日(日)

大胆でカラフルな図案が魅力のマリメッコにちなみ、新潟の風物をテーマに可愛い模様を考案している「にいがたもよう研究所」の協力を得て開催。参加者は模様が印刷されたシートを切り貼りし、思い思いにノートの表紙を飾りました。女性同士のグループ、カップル、親子連れの方々が美術館ロビーは二日間とも大盛況でした!



ワークショップ

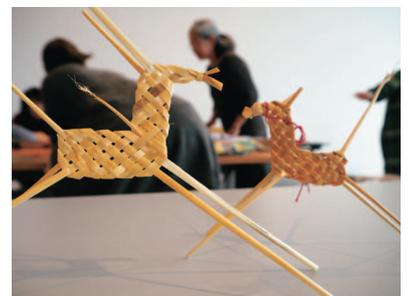
「うまのオーナメントをつくろう」

2017年10月28日(土)

「所蔵品展 うつくしい暮らし」

2017年9月16日(土)～11月5日(日)

北欧工芸研究会の山下真有さんと寺尾雅美さんのご指導のもと、新潟で採れた小麦「ゆきちから」のわらで、馬のかたちの飾りを作りました。同じ手順で編んでも、出来上がりはさまざま。素朴な味わいの、個性あふれる馬が並びました。



「ソール・ライター」を知っていますか？

「ニューヨークが生んだ伝説 写真家 ソール・ライター展」

2019年3月9日(土) ▶ 5月12日(日) (予定)

歿後次第に忘れられ、19世紀になって再び脚光を浴び、今や大人気の画家フェルメール。もし、存命中に評価が激変していたら……。ニューヨークを拠点とした写真家ソール・ライター(1923-2013)の人生には、それが起こりました。ファッション写真で活躍し、『Harper's Bazaar』『Elle』『LIFE』等、有名誌の誌面を飾っていたのですが、80年代初めに商業写真の第一線を引退してからは影を潜めました。だいぶ時が過ぎたのち83歳にして突然、以前の作品が国外で出版されて注目を集めることになったのです。歿後にはなりましたが、昨年は日本初の回顧展がスマッシュヒット。ひっそりと生きることを選んでいた彼は、天国で苦笑していることでしょう。

ナビ派の画家たち、そして彼らも好んだ日本美術そのものを深く



《タクシー》1957年
©Saul Leiter Foundation

敬愛していたライターだけに、その写真が日本人に受け入れられたのは必然とも言えます。しかし、彼の写真が現在の私たちの感性に強く響くのは、コミュニケーション手段の一つとして写真を欠かせない、そんな時代の風が吹いているからなのでしょう。いいえ、風があるうとなかろうと、写真の歴史は今後彼を見失うことはないはず。何気ない瞬間を洒落た場面に変える大胆で繊細な魔法に、私たちは既に深く魅せられているのですから。ライターの写真は、今後ももっともっと見られ、語られ、共有されていくことでしょう。

東京展が話題になってから2年後の巡回(今年4-5月には伊丹市立美術館で開催)となる本展では、展示されなかった資料も補足して、皆様にライターの全貌を伝えたいと思っています。

桐原 浩(当館業務課長)



《雪》1960年 ©Saul Leiter Foundation

NIIGATAアートリンク

新潟のアートシーンをもっと面白く、もっと元気にすることを目的に2012年度からスタートした「NIIGATAアートリンク」。新潟県立近代美術館、新潟市美術館、新潟市新津美術館、新潟県立万代島美術館の4館で構成されています。近代美術館が長期の改修工事に入るため、毎年実施していた4館スタンプラリーは一応終了とさせていただきますが、昨年度ご好評いただいたシンポジウムなどのイベントを今年度も開催予定です。お楽しみに！

ミュージアムショップBANBI

美術館ロビーにあるミュージアムショップBANBIでは、展覧会のオリジナルグッズや展覧会図録、雑貨、書籍などを取りそろえております。近代美術館、万代島美術館開催展の前売券もこちらでどうぞ。

【営業時間】 10:00～18:00

【定休日】 美術館の休館日と同じ

TEL : 025-243-5820



サポートメンバーを募集しています

万代島美術館では、皆さんに美術館により親しんでいただくために、サポートメンバー(ボランティア)を募集しています。主な内容は、美術館および展覧会のイベントへの協力、展覧会ポスターの発送作業などです。活動をご希望の方は、お電話にてお問い合わせ下さい。

TEL : 025-290-6655

新潟県立万代島美術館 The Niigata Bandajima Art Museum

〒950-0078

新潟市中央区万代島5-1(朱鷺メッセ内 万代島ビル5階)

TEL: 025-290-6655 FAX: 025-249-7577

URL: <https://banbi.pref.niigata.lg.jp/>



How To Access

新潟県立万代島美術館は、新潟市を貫く信濃川の河口にある複合施設「朱鷺メッセ」の中、万代島ビル(ホテル日航新潟と同じ建物です)の5階にあります。

新潟駅から

- バス……………約15分
(万代ロバス乗場より「佐渡汽船」行(3番線)あるいは「新潟市観光循環バス」(2番線)に乗り、「朱鷺メッセ」下車)
- タクシー……………約8分
- 徒歩……………約25分

新潟空港から

- タクシー……………約20分

自動車(有料駐車場有り)

- 高速道路、北陸道(新潟I.C.)・磐越道(新潟中央I.C.)・日東道(新潟亀田I.C.)から一般道へ。新潟バイパス、亀田バイパスを紫竹山I.C.で下り、栗ノ木バイパスを新潟西港方面へ。

信濃川ウォーターシャトル(水上バス)

- 新潟ふるさと村から……………約50分
- 新潟市歴史博物館から……………約5分

開館時間 午前10時～午後6時
(観覧券販売は午後5時30分まで)

休館日 月曜日(展覧会によって月曜開館あり)、
展示替期間、年末年始
※展覧会によって異なりますので、
展覧会ごとにご確認ください。

観覧料除 新潟県内の高等学校・特別支援学校が、教育活動として美術館に団体引率をする場合、所定の用紙で事前に(見学の一週間前)申請をすることにより、観覧料が免除されます。美術の授業、社会科見学、遠足などさまざまな形でご利用になれます。